

平成23年10月28日(金)

# 平成24年3月期第2四半期 決算説明資料

## 株式会社 カネカ

もっと、驚く、みらいへ。

**Kaneka**

• 業績概要	P. 3
• 主要指標	P. 4
• 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況	P. 5
• 連結貸借対照表	P. 12
• 連結キャッシュ・フロー計算書	P. 13
• 海外売上高	P. 14
• 為替変動の影響	P. 15
• 設備投資・減価償却費 / 研究開発費	P. 16
• 業績予想	P. 17
• トピックス	P. 19

(平成24年3月期 第2四半期決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 2参照)

(単位：億円)

	23年3月期 第2四半期累計	24年3月期 第2四半期累計	増減額	24年3月期 第2四半期累計 前回予想
売上高	2,243	2,348	105	2,300
営業利益	104	64	△40	90
経常利益	108	58	△50	85
四半期純利益	63	28	△34	45

為替レート (円/US\$) 88.90円 79.75円

為替レート (円/EUR) 113.80円 113.74円

国産ナフサ (円/KL) 46,000円 57,000円

◎ 売上高は前年同四半期連結累計期間（以下、前年同四半期）に対して+105億円・4.7%の増収となりました。

◎ 利益は前年同四半期に対して営業利益で△40億円・△38.4%、経常利益で△50億円・△46.5%、四半期純利益は固定資産売却損もあり△34億円・△54.8%の、それぞれ減益となりました。

	23年3月期 第2四半期累計	24年3月期 第2四半期累計
・ 売上高営業利益率	4.7%	2.7%
・ 売上高経常利益率	4.8%	2.5%
・ 売上高四半期純利益率	2.8%	1.2%
・ 1株当たり四半期純利益	18.54円	8.39円
・ ROE（年換算）	5.1%	2.3%
・ ROA（年換算）	4.9%	2.6%

	23年3月期末	24年3月期 第2四半期末
・ 自己資本比率	55.4%	55.1%
・ 1株当たり純資産	743.88円	727.33円
・ 有利子負債	666億円	640億円
・ D/Eレシオ	0.26	0.26

# 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 第2四半期決算短信 【添付資料】 P. 12・13参照)

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	23年3月期 第2四半期累計	24年3月期 第2四半期累計	増減額	23年3月期 第2四半期累計	24年3月期 第2四半期累計	増減額
化成品	42,802	45,895	3,092	697	1,274	577
機能性樹脂	35,249	37,572	2,322	4,232	3,802	△ 430
発泡樹脂製品	28,727	28,734	7	2,895	1,897	△ 998
食品	60,097	64,495	4,397	3,973	2,508	△ 1,464
ライフサイエンス	23,023	23,289	266	4,188	3,869	△ 318
エレクトロニクス	20,441	19,387	△ 1,054	△ 2,390	△ 2,557	△ 166
合成繊維、その他	13,964	15,474	1,509	587	656	69
調整額	—	—	—	△ 3,734	△ 5,013	△ 1,278
計	224,307	234,848	10,540	10,448	6,438	△ 4,009

◎ 売上高はエレクトロニクスセグメントが減収となりましたが、化成品、機能性樹脂、発泡樹脂製品、食品、ライフサイエンス、合成繊維、その他の6セグメントは増収となりました。

◎ 営業利益は化成品、合成繊維、その他の2セグメントが増益、機能性樹脂、発泡樹脂製品、食品、ライフサイエンス、エレクトロニクスの5セグメントは減益となりました。

# 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 第2四半期決算短信 【添付資料】P. 2参照)

◎当期の事業セグメント別の状況は以下の通りです。

## ・化成品事業

塩化ビニール樹脂は、国内市場向けの販売数量が前年同四半期より増加するとともに、原燃料価格の上昇に伴う販売価格の修正に注力し、増収増益となりました。塩ビ系特殊樹脂は、国内市場向けの販売数量が増加し、コストダウン等も寄与して増収増益となりました。か性ソーダは、国内市場向けの需要が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は45,895百万円と前年同四半期と比べ3,092百万円(7.2%増)の増収となり、営業利益は1,274百万円と前年同四半期と比べ577百万円(82.8%増)の増益となりました。

## ・機能性樹脂事業

モディファイヤーは、国内・海外市場ともに需要が低調に推移し、製品差別化力の向上及びコストダウン等の収益体質強化に注力したものの、原燃料価格の上昇及び円高の影響を強く受け、増収ながら減益となりました。変成シリコンポリマーは、欧州・北米及び国内の建築関連需要が低調に推移するとともに、原燃料価格の上昇及び円高の影響を受けたものの、各市場において販売数量が増加し、増収増益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は37,572百万円と前年同四半期と比べ2,322百万円(6.6%増)の増収となり、営業利益は3,802百万円と前年同四半期と比べ430百万円(10.2%減)の減益となりました。

# 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 第2四半期決算短信 【添付資料】P. 3参照)

## ・発泡樹脂製品事業

発泡スチレン樹脂・成型品は、東日本大震災による東北・関東地域の水産分野の需要低迷の影響を強く受けました。押出發泡ポリスチレンボードは、国内住宅市場の需要が伸び悩む中で販売数量を拡大し、原燃料価格上昇に対応した製造コストダウンと経費削減にも徹底して取り組みました。ビーズ法発泡ポリオレフィンは、震災による自動車分野のサプライチェーン停滞等に伴う需要減少の影響を受け、日本・アジア・欧州市場ともに需要が低迷しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は28,734百万円と前年同四半期比7百万円増(0.0%増)のほぼ同水準となり、営業利益は1,897百万円と前年同四半期と比べ998百万円(34.5%減)の減益となりました。

## ・食品事業

食品は、新製品の拡販などにより販売数量が増加するとともに、製品の価格修正やコストダウンに努めましたが、油脂等原料価格の高止まりや顧客の低価格志向の高まりを背景とした安価品の構成拡大の影響を強く受けました。

以上の結果、当セグメントの売上高は64,495百万円と前年同四半期と比べ4,397百万円(7.3%増)の増収となり、営業利益は2,508百万円と前年同四半期と比べ1,464百万円(36.9%減)の減益となりました。

# 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 第2四半期決算短信 【添付資料】P. 3参照)

## ・ライフサイエンス事業

医療機器は、インターベンション事業の販売が順調に拡大しました。医薬バルク・中間体は、販売数量が低調に推移しました。機能性食品素材は、米国市場はじめ欧州・日本市場でも高機能品の販売数量が増加し、コストダウンにも注力しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は23,289百万円と前年同四半期と比べ266百万円(1.2%増)の増収となり、営業利益は3,869百万円と前年同四半期と比べ318百万円(7.6%減)の減益となりました。

## ・エレクトロニクス事業

液晶関連製品は、新規用途の拡大などにより販売数量が増加したものの、超耐熱性ポリイミドフィルムは、震災及び欧州・米国など世界的な経済不安の広がりを背景としたエレクトロニクス製品市場の需要停滞の影響により、販売数量が前年同四半期を下回りました。太陽電池は、海外市場の需要低迷と競争の激化に伴う販売価格下落及び円高の影響を受けるなかで、国内市場向けの販売数量は着実に増加しましたが、欧州・アジア市場向けの販売数量が減少し、太陽電池関連部材も低調な出荷となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は19,387百万円と前年同四半期と比べ1,054百万円(5.2%減)の減収となり、営業損失は2,557百万円となりました。



# 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成24年3月期 第2四半期決算短信 【添付資料】P. 3参照)

## •合成繊維、その他事業

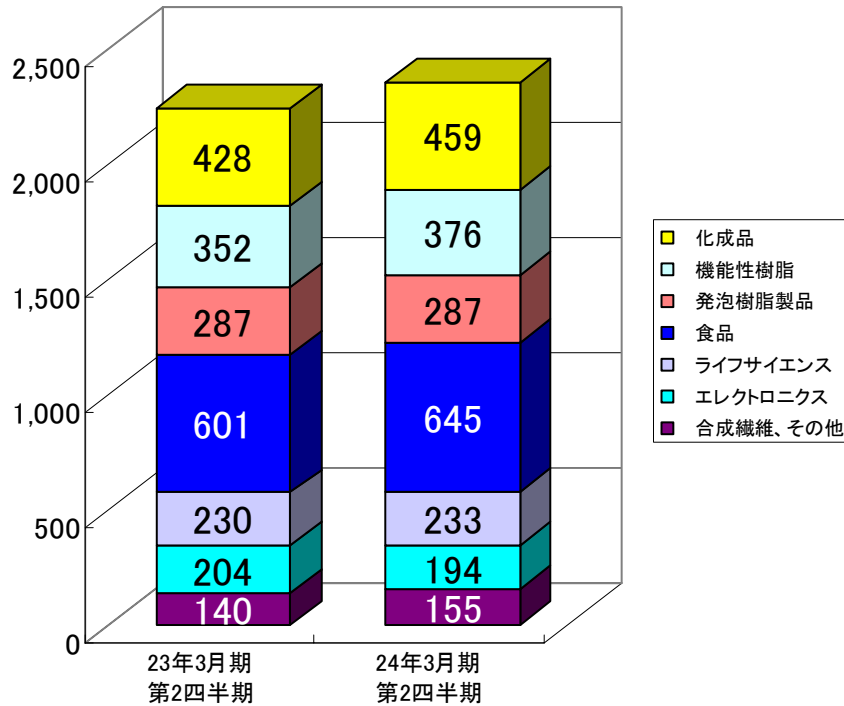
合成繊維は、円高及び原燃料価格の上昇の影響を強く受けましたが、海外市場の需要堅調を背景に販売数量が前年同四半期より増加するとともに、販売価格の修正やコストダウンなどの収益改善策に注力し、増収増益を確保しました。また、その他事業についても増益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は15,474百万円と前年同四半期と比べ1,509百万円(10.8%増)の増収となり、営業利益は656百万円と前年同四半期と比べ69百万円(11.8%増)の増益となりました。

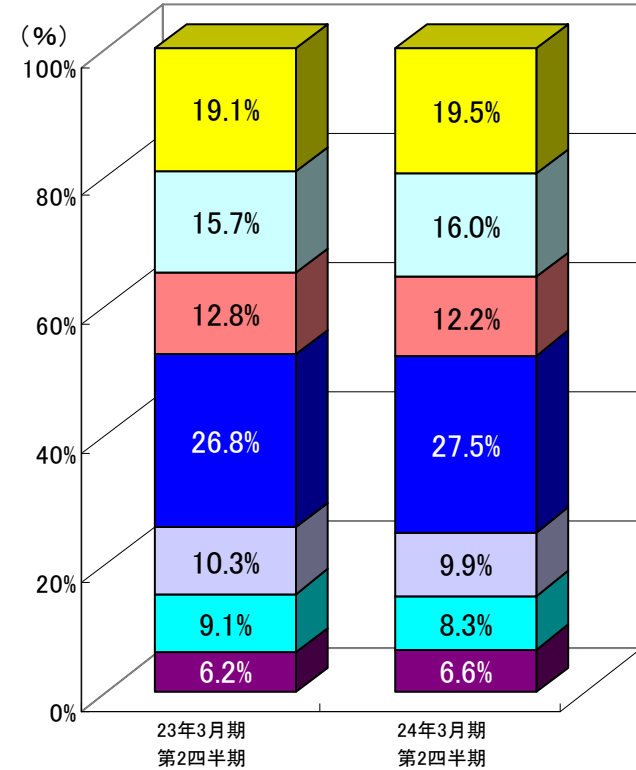
# 事業セグメント別売上高

## セグメント別売上高

(億円)



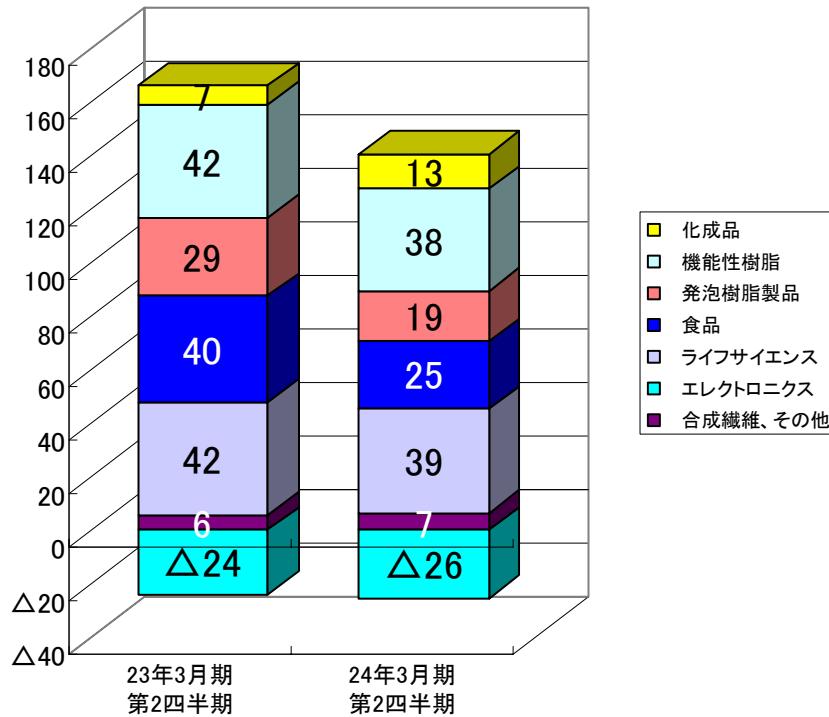
## セグメント別売上高: 構成比



# 事業セグメント別 営業利益

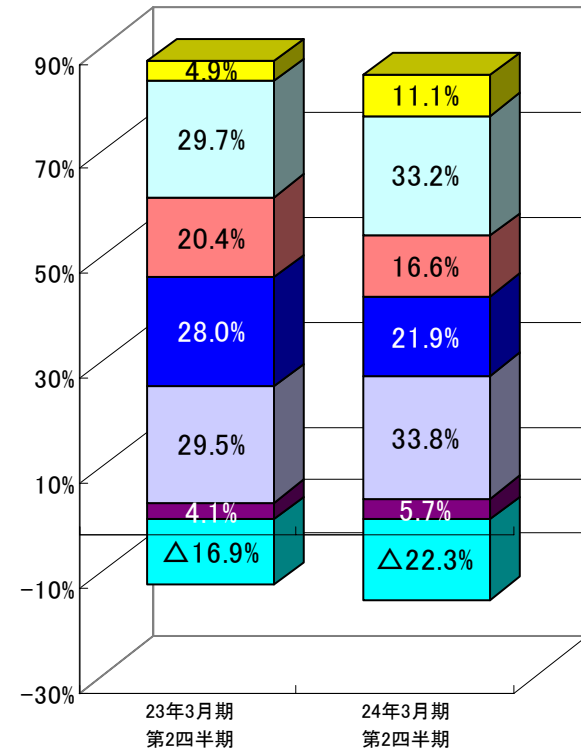
## セグメント別営業利益

(億円)



## セグメント別営業利益: 構成比

(%)



(平成24年3月期 第2四半期決算短信【添付資料】P. 6・7参照)

(単位：億円)

		23年3月期末	24年3月期 第2四半期末	増減額
資産	流動資産	2,224	2,178	△ 46
	固定資産等	2,327	2,293	△ 34
	合計	4,551	4,471	△ 80
負債	有利子負債	666	640	△ 26
	その他	1,267	1,269	2
	合計	1,933	1,909	△ 24
純資産	自己資本	2,521	2,465	△ 56
	少数株主持分 他	97	97	△ 0
	合計	2,618	2,562	△ 56
負債、純資産 合計		4,551	4,471	△ 80
D/Eレシオ		0.26	0.26	

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したもの

- ◎ 総資産は、前連結会計年度末に比べて80億円減の4,471億円となりました。
- ◎ 有利子負債残高は、26億円減少し640億円となりました。
- ◎ 純資産は、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の減少等により56億円減の2,562億円となりました。

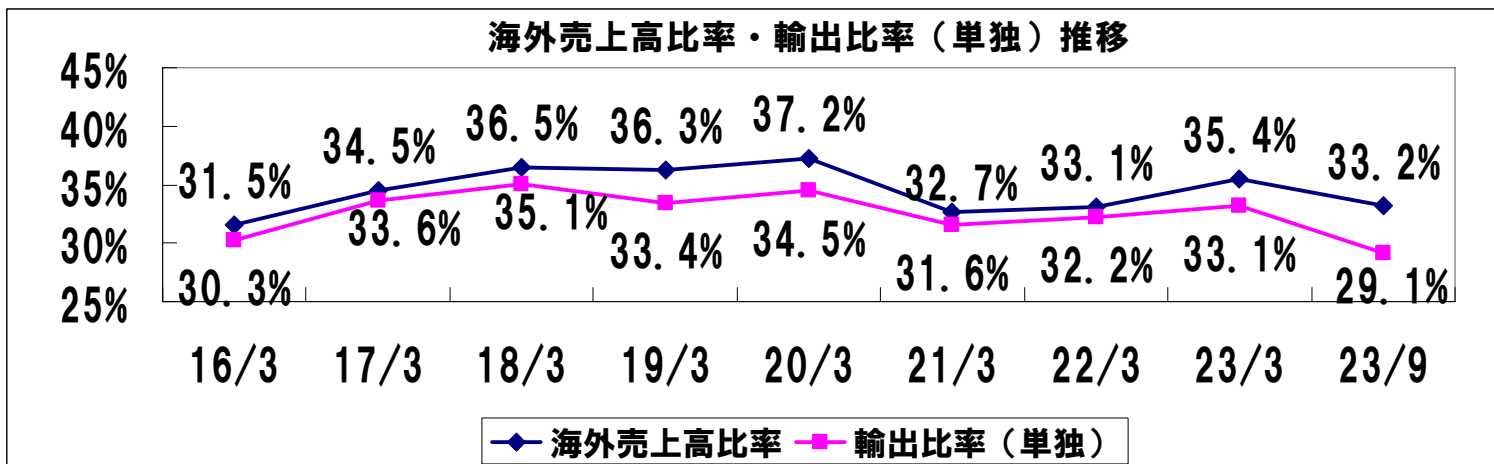
# 連結キャッシュ・フロー計算書

(平成24年3月期 第2四半期決算短信【添付資料】P. 10・11参照)

(単位：億円)

	23年3月期 第2四半期	24年3月期 第2四半期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	205	28	△ 177
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 191	△ 144	46
フリー・キャッシュ・フロー	15	△ 116	△ 131
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 12	△ 45	△ 33
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額)	4	△ 156	△ 160
現金及び現金同等物の四半期末残高	409	214	△ 195

- ◎ 当第2四半期連結累計期間の営業活動による資金の増加は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により28億円となりました。
- ◎ 投資活動による資金の支出は、有形固定資産の取得による支出等により144億円、財務活動による資金の支出は、社債の償還による支出等により45億円となりました。
- ◎ この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、214億円となりました。



（単位：億円）

	23年3月期 第2四半期累計	24年3月期 第2四半期累計	増減額	増減率
アジア	355	327	△ 27	△7.7%
北米	155	147	△ 8	△5.0%
欧州	208	221	13	+6.3%
その他	91	84	△ 7	△7.8%
海外売上高計 （海外売上高比率）	808 (36.0%)	779 (33.2%)	△ 29	△3.6%

◎ 海外売上高は為替の影響（△54億円）もあり、779億円と前年同四半期に比べて3.6%減となりました。海外売上高比率は33.2%と、前年同四半期の36.0%を下回りました。

## 【期中平均レート】

(単位:円)

	23年3月期 第2四半期累計	24年3月期 第2四半期累計
米ドル	88.90	79.75
ユーロ	113.80	113.74

## 【通貨別影響額】

(単位:億円)

	売上高	営業利益
米ドル	△51	△21
ユーロ	0	1
その他	△4	△0
合計	△54	△21

◎為替は対ドルで円高、ユーロはほぼ前年同四半期並みとなり、前年同四半期に対して売上高で△54億円、営業利益で△21億円の影響を受けました。

# 設備投資・減価償却費 / 研究開発費

(単位：億円)

	23年3月期 第2四半期累計	24年3月期 第2四半期累計
設備投資	155	166
減価償却費	134	140
研究開発費	86	99



(平成24年3月期 第2四半期決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 4参照)

- ◎ 当社グループの各事業は、第1四半期連結会計期間以降、東日本大震災による需要減少等の影響や原燃料価格の高騰、円高の進行の影響を強く受けております。第3四半期連結会計期間以降の事業環境は、日本における震災復興需要の本格化が期待される一方、世界経済は、財政危機問題を契機とした欧州・米国の経済悪化のリスクや中国・アジア諸国など新興国の景気減速懸念、国際的な株式・金融市場の不安定化や為替の動向など、先行きが極めて不透明な情勢となっております。
- ◎ このような状況下、当社グループは、各事業において、販売数量増大のための施策及び製造コストや経費の削減、円高対策等に徹底して取り組み、収益強化に全力を挙げておりますが、通期連結業績予想は、前回予想を下回る見込みとなりました。

通期

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想	5,000	250	235	130
今回修正予想	4,850	175	155	75
増減額	△150	△75	△80	△55
増減率	△3.0%	△30.0%	△34.0%	△42.3%
前期通期実績	4,538	212	210	116

【10-3月期前提条件】為替：75円/US\$、105円/EUR、国産ナフサ：51,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	23年3月期 実績	24年3月期 今回予想	増減額	23年3月期 実績	24年3月期 今回予想	増減額
化成品	855	920	65	28	31	3
機能性樹脂	700	770	70	83	72	△ 11
発泡樹脂製品	586	580	△ 6	62	46	△ 16
食品	1,238	1,330	92	80	60	△ 20
ライフサイエンス	475	500	25	93	100	7
エレクトロニクス	412	450	38	△ 58	△ 48	10
合成繊維、その他	272	300	28	8	13	5
調整額	—	—	—	△ 83	△ 99	△ 16
計	4,538	4,850	312	212	175	△ 37

【10-3月期前提条件】為替：75円/US\$、105円/EUR、国産ナフサ：51,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- ポリイミドフィルム及びポリイミドフィルム搭載製品などに関する  
米国国際貿易委員会の調査開始についてのお知らせ — 5月6日
- 100%植物由来バイオポリマーの生産実証設備が竣工稼働  
— 商品名を「カネカバイオポリマー アオニレックス®」と設定し積極的に展開 — 5月12日
- 平成22年度高分子学会賞(技術部門)を受賞  
— テレケリックポリアクリレートの開発と工業化に対して — 5月27日
- 2型糖尿病に対する還元型コエンザイムQ10の改善効果について  
— 千葉大学との共同研究で効果を確認 — 6月8日
- 中国、日本及び米国企業に対する、酸化型コエンザイムQ10に関する米国国際貿易委員会への  
申立について — 6月20日
- Evonik Röhm GmbHのアクリル系モディファイヤーおよび  
アクリルゾル事業譲受けに関する譲渡契約締結のお知らせ — 6月24日
- 大阪大学内に「カネカ基盤技術協働研究所」を開設  
— イノベーションを先導する基盤技術の開発と人材育成を目指す — 7月6日
- ジーンフロンティア。新製品「再構成型無細胞タンパク質合成キット」の販売を開始  
— 遺伝子を反応液に加えるだけで迅速かつ簡便にタンパク質の合成が可能 — 7月11日
- 酸化型コエンザイムQ10に関する米国国際貿易委員会の調査開始についてのお知らせ — 7月19日
- 合成繊維事業の海外展開を更に加速 — 5年後売上高約2倍の500億円へ — 7月21日
- 金属を直接蒸着可能なアクリルフィルムを開発 — 各種成形加工に適し、深絞り加工も可能 — 7月26日
- 血栓吸引カテーテルに関する特許権侵害訴訟提起について — 8月2日
- 歯周病に対する還元型コエンザイムQ10の口腔内環境改善について  
— 日本大学との共同研究で効果を確認 — 8月3日
- ディスプレイ用薄膜トランジスタ(TFT)向け塗布型有機絶縁材料を開発 — 9月7日
- 「台湾鐘化股份有限公司」を設立・開所式を開催 — 9月14日

**kaneka**